

「シーガー使って今日も快釣」

鈴木新太郎のワンポイントアドバイス

★「ワラサ釣りの仕掛けは強度のあるハリスを使うのはもちろんですが、しっかりしたノットも必要です」と鈴木さん。せっかく強いハリスを使っても、ノットが弱くては意味がないということだ。2人が採用しているのが内掛け式の南方延縄結び。大物釣りには広く使われている結び方で、太ハリスを結ぶときには最強のノット。ぜひ覚えておきたい。詳細はシーガーのHPに紹介されているので参考に。



シーガー グランドマックス FX

●ハリスはグランドマックスFX。ワラサには6、8、10号がおすすめ。各60m巻きでメーカー希望本体価格4400～6000円

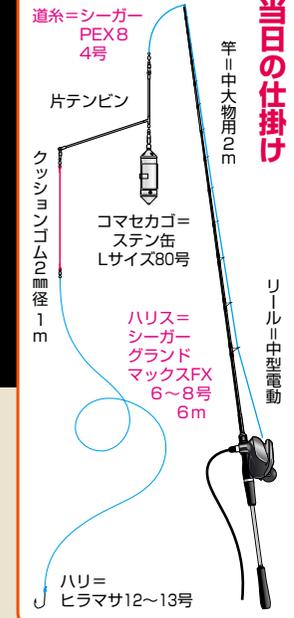


シーガーPE X8

●道糸はシーガーPE X8の4号を使用。電動リールに合わせて4号は300mと400m巻きを用意。価格はオープン



▼鈴木さんのアドバイスでようやくキャッチ



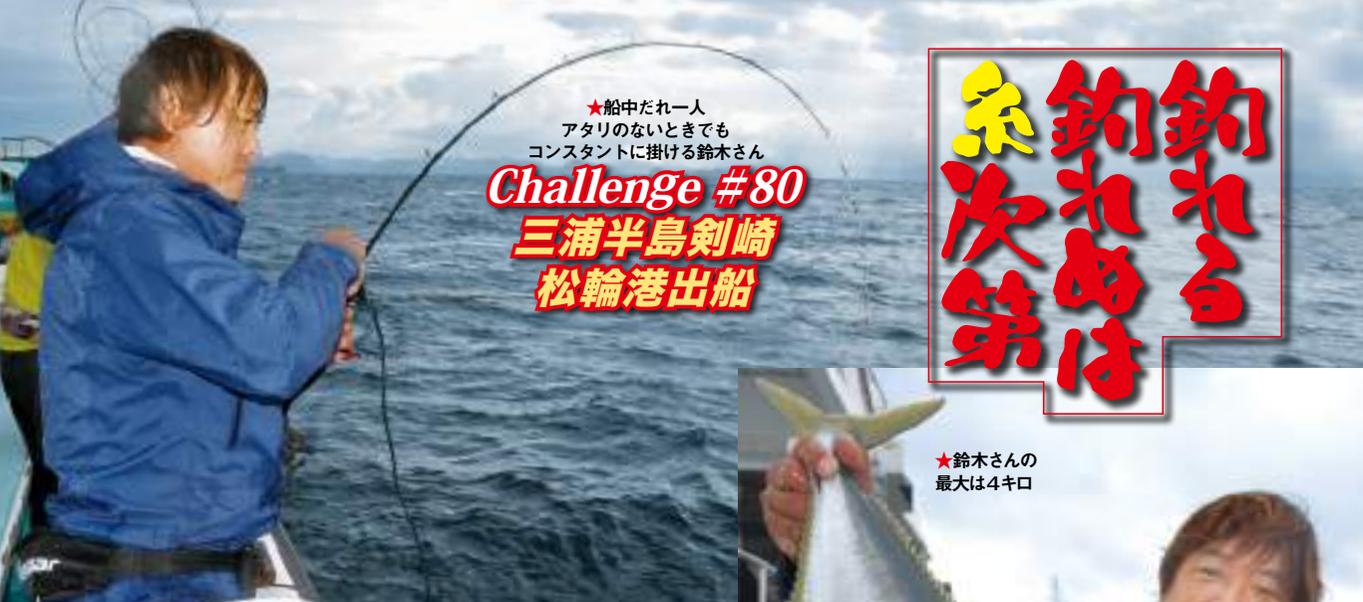
▲マダイは船中1枚、3キロ近かった

▲当日の平均は3～4キロ級
▼5キロ近い良型も交じった

取り込んだのは3.5キロ級だった。いつもなら早朝に食いが集中するのだが、この日は断続的にアタリがくるという状況。こうなると釣り方や仕掛けの工夫が左右する。中でも群を抜いて掛くまくっていたのが鈴木さん。「どうもコマセのまき方ですね。底から3～4メートルで集中的にまいて、9～10メートルで待つパターンです」これを女良さんだけでなく、他の乗船者にも教えると、すぐにアタリがやってくる。船長も感心するほどだった。2時間もすると食いは収まってくる。2人は6号に落ちたり、コマセワイクを変えたりしながら釣り続ける。潮止まりの時間であっても、鈴木さんにはアタリがくるのはそんな工夫が結果したからに違いない。フックアウトやオマツリしてのバラシもありながら、納竿の13時まで鈴木さん7本、女良さん5本の釣果で船中ワンツーフィニッシュ。

「いや、今日は決して食いのいい日じゃなかったけれど、2人はよく釣ってくれて助かりました」と立川船長。「持参したクーラー(35リットル)がちょうどいっぱいになりました。晩酌が楽しみです」と鈴木さん。

「いや、ワラサ釣りがこんなに楽しいとは思いませんでした。バラシも多かったので勉強して出直します」と女良さん。納竿時にはすっかり雨も上がって、晴れ晴れとした気分が帰途につく2人だった。



★船中だれ一人アタリのないときでもコンスタントに掛ける鈴木さん
Challenge #80
三浦半島剣崎
松輪港出船

釣れる釣れる釣れる

系次第

★鈴木さんの最大は4キロ

▲なんと鈴木さんに1投目からアタリ
▼最終的に7本、「もう少しバラシがなければ」と悔やんでいた
▼2人の息もピッタリ



★女良さんは初めてのワラサに大満足

▲仕掛けはハリスの強度とノットが重要
▼ハリスは6、8号メインに予備で10号も

鈴木新太郎、女良圭佑

ようやく本格化の剣崎ワラサ

お見事!ワンツーフィニッシュ

●「6号にきました」とややドラグを効かせながらのヤリトリ

●早い年には8月に釣れ始まる三浦半島剣崎沖のワラサだが、今年には猛暑の影響が本格化したのは10月に入ってから。この機を待ちかねていたのがシーガースタッフの鈴木新太郎、女良圭佑の両氏。くしくも今期のワラサ初挑戦となった。

「実は私、剣崎のワラサは初挑戦なんです。ワクワクしてこの日を迎えました」と女良さん。一方の鈴木さんは、「今後のためにどんな仕掛け、どんな釣り方がいいのかを試してみます」とベテランらしい心意気を見せる。

乗船したのは剣崎松輪港の一義丸。平日でも2隻満船の盛況だ。2人は立川弘樹船長操船の28号船の右舷トモから並んで席を取る。仕掛けは、信頼の「シーガーグランドマックスFX」8号6メートル。食いのいいときなら10号でもと船長は言うが、「このハリスの強度なら8号で十分でしょう」と鈴木さんは胸を張る。

6時15分に出船し、剣崎沖水深45メートルで第1投となる。当日は朝から強い雨に見舞われる悪条件だったが、2人も気にする素振りも見せず、楽しそうに投入する。

当日のタナ取りは潮が速いのを考慮し、いったんピンを底まで下ろし、9～10メートルで待つというもの。開始してわずか5分、なんと船中初で竿を曲げたのが鈴木さんだった。あらかじめドラグは強めに設定し、遊ばせることなくグイグイと巻き上げ、3キロ級を取り込んだ。

「時間をかけるとオマツリしちゃいますからね」と鈴木さん。大きく竿を曲げながら、「ウワッ、引きますね。楽しいです」と初めてのワラサに感激の様子。